

## 日本生協連第65回通常総会・全体討論「発言概要」

会 員 名	生活協同組合コープあおもり		
代議員番号	26	代議員名	澤上 昌子

### ● 発言議案（第 1 号議案）

コープあおもりと青森保健生協が共同出資し設立した、県内初のオール電化の大規模調理施設「あおもりセントラルキッチン」が稼動してから1年3ヵ月が経過しました。14年度は当初の食数拡大が遅れたため、残念ながら経営計画は達成することができませんでしたが、配食サービスは昨年度末で1日当り1,000食まで増え、食数計画を上回ることができました。現在は1日当り、病院食1,150食、介護福祉施設食950食をあわせて、1日当り3,100食を製造し、提供しています。

給食・配食事業が成功するように、昨年度はコープあおもりと青森保健生協の組合員が各地域で配食サービスの試食会を実施し、73会場で1,130人の参加がありました。また、セントラルキッチンの見学も積極的に行い、360人の組合員や他生協の職員の方々が見学に来られました。是非皆さんも見学にいらしてください。

「あおもりセントラルキッチン」で製造している配食・給食は、もちろんコープあおもり食品添加物基準に沿った材料を使用していますが、特徴としては以下の点があげられます。一つ目は、材料は県産品・国産品を主に使用し、手作りにこだわっています。野菜や肉・魚の下処理室を設け、加工できるようにしています。二つ目は、加熱調理した料理を急速冷却し、チルド保存する調理方法（クックチルド方式）で製造しています。この調理方法だと菌の増殖を防ぎ、調理から提供するまでの時間を延ばすことができます。三つ目は、厚生労働省の「日本人の食事摂取基準」にそって栄養バランスを考え、塩分を控えめにした献立を管理栄養士がつくっています。

私たちは、購買生協と医療福祉生協が連携し、住みなれた地域に健康で安心して住み続けられるまちづくりをすすめていきたいと考えています。今年度は、組合員の要望でもある配食サービスでの昼食開始と個別対応食のテストやモニターの実施を計画し、病院・介護給食1日2,200食、配食サービスは1日2,000食、合計4,200食をめざして取り組んでいます。

給食・配食事業の立ち上げと平行して、高齢者等の見守り活動を進めて来ました。昨年2月、県内4つの地域購買生協と3つの医療福祉生協の7つの生協が、青森県社会福祉協議会・青森県市長会・青森県町村会・青森県生協連に賛同いただき、青森県との間で「高齢者等見守りの取組」推進に関する協定を締結しました。その後、賛同団体による支援を受けて、県内40市町村すべての自治体との締結を進めてきましたが、昨年度末で39市町村との協定締結が終了し、残る1つの自治体も近々締結の意向となっています。このうち、23自治体が複数の生協が協同で締結したことが大きな特徴です。また、18自治体が締結式を執り行い、各生協の代表と首長との懇談の場では、一緒に地域の安心を作っていこうと話しかうことができました。

見守り協定による、自治体への報告事例は4月からの1年間で29件となりました。そのうち、緊急入院につながった方や、すでにお亡くなりになった方の発見もあり、今後ますます大切な取り組みとなると思います。また、見守りの実効性を高めるために、組合員と接する職員全員を認知症サポーターに養成するため、認知症キャラバンメイトの養成研修を行いました。私たち組合員理事も含め84名の講師集団ができましたので、今年度は各事業所で研修をすすめます。また、組合員の認知症サポーターの養成を進めていきたいと考えています。

組合員と職員がそれぞれの立場ですすめていくこと、地域購買生協と医療福祉生協の連携をはじめ、県内の生協がそれぞれの事業や活動の特色を活かしあった協働を深めていくことで、地域社会のくらしの安心に、より一層貢献できることを実感した1年でした。今後さらに、地域購買生協と医療福祉生協の共同の取り組みを広げ、一緒に学び、話し合い、行動する中から、生協だからできることを広げていきたいと思っています。